

## 7. 事柄

- 父を自宅に連れて帰って下さったのがニ宮さんと中村さん。  
1年2か月ぶりにわか家に帰ってきた父の顔は、穏やかな優しい顔をしていました。(ニ宮さんと中村さんの父に対する扱いがすごく丁寧で、あたたかさを感じました)
- 1/21 父がなくなった日の打ち合わせは中村さん、翌日(1/22)は木村さん。  
最後の総仕上げは近藤さんが担当してくれました。日ごと担当が代わって申し訳ありませんと木村さんが言われましたが、スタッフの皆さんの連携がしっかりされていたこと、さすが“マルサン”さんだと思いました。
- 近藤さんには司会もやって頂きました。(母の時は小林さんでした)  
マルサンさんを代表するお二人の司会は“涙”なくしては聞けない程、すばらしいです。私の従姉は、近藤さんの司会が始まったと同時に、最後まで涙が止まらなかったと言っていました。
- 母、姉の夫を担当して下さった岡村さん。ご病気をされまだ全快していないのに、石川のために時間を作って打ち合わせに来てくださいました。  
葬儀の日程、細かい流れ、通夜膳、帰り膳、返礼品など……死後のことがその場で決めることができました。私達が困らないようにと、気配り、目配り、思いやり、この三要素を持ち続ける岡村さんの優しさや責任感の強さを通感しました。  
岡村さんのことを心配する私達に対し、自分のことよりも石川のことを心配し、気づかせてくれたこと、とても嬉しかったです。

## 8. 事柄

葬儀が一番悩んだのがホール選びでした。野百合ホールで父の葬儀を行うということは、4年前に母が亡くなった時の父との約束でした。

父が「はあちゃんはいいなあ～、あんなによくやってもらえて」とうらやましそうに言ったので「大丈夫だよ、お父ちゃんの時はずっとよくやっていたから」と言ったら、苦笑いをしていた父の顔を忘れることができません。(母も野百合ホールでやらせてもらったので)

家族葬を好まなかった父、少人数なのに広いホールでやるのはみっともないと批判する姉と姪達。マルサン社のスタッフの皆さんに事情を話し聞いてみたら「大丈夫ですよ、少人数でも野百合ホールでやられる方いますよ、おかしいことなかないですよ。椅子の調節もできますよ」と言って下さいました。

やり直しがかきかないのが葬儀、「主役は父親」人なんかいなくてもいいと思ったらもう迷うことはありませんでした。マルサン社のスタッフの方々が背中を押してくれたからです。葬儀に関しては、スタッフの皆様が全面的にサポートして下さいたので何一つ不安はありませんでした。

一年前に言葉を失い、誰にもみとられることなく静かに息を吐きとった父(最後は闇に合れなかったので) 姉と姪2人、女4人で見送るのは可哀想な気がしましたが、「マルサン」さんという「大家族」に見守られ、旅立つことが出来た父は最高に幸せだったと思います。心から感謝しています。

私一人では何も出来ませんでした。マルサンさんが支え続けて下さったお陰で父を見送ることができました。親孝行はできなかったかも知れませんが父との約束は守れたと思います。有難うございました。

乱文 乱筆 お許し下さいませ。